

自由民主党会派報

http://jimin-sumida.jp/
墨田区議会自由民主党のホームページを
リニューアル致しました。
ご意見・ご要望をお待ちしております。

第三回定例会議の開催（9月8日～30日）

山本とおる議員が会派を代表し本会議質問、あそあきこ議員一般質問

平成20年度決算特別委員会を開催（10月20日～30日）

田中邦友議員が決算案に対する我が会派の主張を展開



改修中の原子炉炉心にて、研修中の木内清・瀧澤良仁・西原文隆・中村光雄・坂下 修・出羽邦夫・田中邦友・沖山 仁・林 恒雄・山本とおる・福田はるみ各議員（樋口敏郎議員は公務のため翌日より参加）

《会派の視察研修》

◎柏崎刈羽原子力発電所を視察（7月29日）

地球温暖化防止に向けたエネルギーの活用、安全性及び今後の課題等について、東京電力の担当者から説明を受ける。

◎富山県高岡市を訪問（7月30日）

環境と経済の好環境のまちづくり事業を視察、「環境資源マップ」づくりの経緯と課題について説明を受ける。

◎富山県富山市を訪問（7月31日）

富山市の中心商店街を視察、「街なか感謝デー事業」の取り組みと商店街の活性化等について説明を受ける。

平成21年第四回定例会議での質問概要（平成21年9月8日～30日）

代表質問



山本とおる

◆政権交代による墨田区への影響について

この度の国の政権交代が墨田区への影響を及ぼし、区民の利益に繋がったり、途惑うことのないよう、継続性を重視した区政運営に努めなければならぬ。区民生活に直結する問題点について区長の所見を伺う。

①後期高齢者医療制度について

新制度は、運用状況の検証もせずマニフェストによる廃止をうたっている。廃止後の具体案が示されない中で、区民の皆さん、特に高齢者の方々の不安も大きいのではないかと懸念しているが、区長はどう考えるか。

負担の軽減、年金天引き選択制の導入などを行ってきた。区民の皆さんには概ね、制度についての理解が得られ、その定着が進んできていると認識している。

新制度で制度の廃止が議論され、いくことになるが、国民皆保険を維持するための医療制度はどうあるべきかについて、全般的な医療保険システムを是非構築してもらいたいと考えている。必要に応じて、区の現状を特別区長会を通じて国に伝えていきたい。

②区の事業計画及び財政計画の対応について

区民生活の更なる向上、緊急対策を講じるため補正予算を審議することになっているが、報道によると、新制度は、前政権が決定した21年度補正予算四、三兆円のうち一兆円以上を凍結する方針と発表され、区が財源として見込んでいた事業も凍結されることが予想される。財源確保が流動的なまま区の補正を審議するのは不自然で混乱を招くと考えるか。

提案させていただいている補正予算は、緊急雇用対策や経済対策を受けて実施するものをはじめ、新たに生じた行政需要に迅速に対応するために所要の経費を計上させていただいている。

今回の補正予算のうち、全国一律で実施する子育て応援特別手当、離職者住宅手当緊急特別措置事業、女性特有のがん検診事業については、国の動向に合わせて実施したいと考えている。

③まちづくり事業について

まちづくり交付金も凍結の方針と聞いているが、新タワー建設にもなる、国際観

光都市としてのインフラ対策などの施設整備は、都市再生特別措置法に基づいて事業計画の認定を受けて交付金を受けるというもので、この根拠ある財源が、新制度の方針によって凍結や削減されるようなことがあつてはならない。また、ガソリン税など暫定税率の廃止もうたっているが、区が見込んでいた道路整備や橋梁の架け替えなど、わが区の事業計画に相当な影響を及ぼすものと考えているが、どう受け止めているか。

率の廃止に関しては、地方公共団体に対して何らの財源補てんもせず、来年度から廃止されると、本区においてもこれまで交付されていた財源がその分減少し、東京スカイツリー関連事業にとまらず、財政運営において大きな影響が生じることとなる。地方公共団体が財政運営において大きな支障が生じることのないよう、見直しに当たっては事務事業の権限とそれに見合う財源確保を裏裏一体のものとして行ってもらいたいと考えている。

◆新型インフルエンザ対策について

新型インフルエンザ集団感染による休校や学級閉鎖、重度障害や高齢者、幼児などの重症化や死亡の報道が続いているが、本区においても、学校や保育園で集団感染例が複数発生し、直ちに対策本部を設けて感染拡大の防止に取り組んできたことは、高く評価する。それに関連し幾つかの提言と質問を行う。

①「集団への新型インフルエンザ対策の基準」について

八月に基準が設けられ、区としての対応策の共有化が図られたが、大切なことは、対象者をはじめとする区民の皆さんにどれだけ浸透させ基準を守っていただけるかということだ。今後の流行期にしっかりと対策の成果を出せるよう努力していただきたい。

この対策の基準は、集団に影響を及ぼすインフルエンザ患者が確認された場合の施設閉鎖等の対策基準について定められたもので、当面はこの基準をベースとして、患者が発生した場合に速やかにマスク着用、さらには状況により施設閉鎖等の対策を行うこととしている。区民の皆さんには、区報やホームページ、町会の情報提供等を通じて、周知をしていきたい。

今後とも状況に即応した感染防止対策を徹底するとともに、重要な行事の実施にあたっては、学校現場等とも緊密に連携を取り合い、適切な対応に努めてまいりたい。

②医療との連携の強化について

今後の展開として、区は医療問題へのシフトを考えると、重要と思うが、区を挙げて守るという意識で、重症化した場合の診療体制の確保や相談窓口の紹介など、都や国の動向を注視しつつ、できるだけの努力が必要と考えるが。

感染した場合に重症化のリスクが高いとされる乳幼児や妊婦、高齢者等については特に注意が必要であり、これらの方々に対しては今後の流行の状況に応じて、適切な感染防止対策を講じていく。今後想定される大流行期において特に重症化が懸念される患者についても、速やかに対応できるよう、区内医療機関とも協力して区民の生命と安全を第一に様々な対応をしていきたい。

③危機管理の徹底について

今後予想される強毒性の鳥インフルエンザの流行も視野にいれ、今以上のリスクナリオを策定し、流行に備えていかなければならないと考えるが、区民の安心・安全に繋がる危機管理という観点で見ると、

今回の新型インフルエンザが、今後強毒性に変異する可能性はまだ捨てることができず、また将来的には鳥インフルエンザの流行の懸念もある。そうした中で、職員が一定以上の割合で感染した場合の対応等についても検討を開始しているが、今後考えられるあらゆるリスクを想定した業務継続計画の策定を早急に着手する。

◆おみだの外郭団体について

墨田区には、区民のニーズや新しい政策の実現を図るため幾つかの外郭団体があるが、様々な分野で区民サービスの実現に努め、その存在意義は極めて大きいと考えられる。一方で、設立からの長い時間経過、社会状況の変化などにより、本来の設立目的との乖離が散見され、経営の改善努力や効率化の意識、新しい仕事への意欲、団体の躍動感といったものが感じられないのも事実だ。設立目的や事業内容、実績の検証・点検・見直しを行い、時代にマッチした団体の発展を促すために、もっと区民に動きが見える事業展開、経営の透明性を図るなど踏み込んだ改革が必要だと考えるが、区長の見解は、

公益法人化や指定管理者制度の導入など、外郭団体を取りまく環境の変化等により、その果たすべき役割や、団体のあり方そのものが改めて問われている。そのため各団体とも設立主旨の原点に立ち返り、第三セクターとしての組織の特性・性格を明確に認識していくことが求めらる。その認識の上で区民福祉の向上や、まちづくりの実現を図るための公共的業務を担う団体として、その役割を果たすか、民間事業者との競争にも十分太刀打ちできる経営力を備えた団体を目指すなど、効率的・効果的な経営を強化していく必要がある。

区としても、「公益法人制度改革」を重要な機会として受けとめ、新たな外郭団体に着実に移行できるように必要な指導・助言を行っていきたく考えている。

◆おみだの教育について

墨田区の教育問題について教育長に伺う。

①新学習指導要領への対応について

ゆとり教育の検証をもとに新学習指導要領が出された。また、現在、小中学校で進行しつつあるといわれる学力の二極化問題とその対応について伺う。

今回の新学習指導要領の改訂は、ゆとり教育から児童生徒の学力向上のうえで大きな転換点としてとらえ、日常の授業の進め方ももとより、教育課程の組み立て方や学校行事における工夫まで一層の充実・改善が行われるよう各学校を指導しているところである。また、研修内容の拡充を図り、国庫補助等

代表質問



あそう あきこ

◆子育て中の母親のための情報発信について

子育て中の母親の声を傾ける機会を増やしていただきたいが、どのようなビジョンをもって子育て推進にあたっているか。

家庭のみならず、行政・地域・企業が、それぞれの役割分担のもとに、子育てを支えていくことを基本に施策を進めている。子育てにかかる地域の課題やニーズの積極的な把握に努め、今年度策定を行っている次世代育成支援の後期の行動計画の中で検討したい。

◆子育て支援と区民活動推進について

私が提案させていただいた「子育て支援マップ作成経費」が予算計上されているが、どのような方向性で展開していくのか。

また、区民活動を推進し、PRされる場をつくる。同時に、動き易い仕組みづくりも必要と思いが、区としてどのように考えているか。

区民と行政が協働して子育て支援に積極的に取り組む事例もあつた。こうした自主活動グループや区民の方々の連携・協力を積極的に図りたい。

協働・協力を積極的に図りたい。重要だと考えるのは、担い手の育成である。担い手の発掘・育成、そして応援する事業として、昨年度から、わがまちコーデーター創出支援モデル事業を実施しており、子育て支援マップ作成に関わるボランティアの皆さんもまたこの事業から誕生した協働・協働の担い手であり、ひとつの成果に結びついたものと考えている。今後、内容を更に充実し、積極的に区民活動を支援し、協働・協働によるまちづくりを進めていく。

◆子どものための休職制度について

子育て総合支援センターや子育て広場が区内南北にでき、積極的に子育て中の方への応援体制が整ってきたが、現在行われている方策の改善について伺う。

また、墨田区次世代育成支援行動の後期計画をつくる区民のニーズ調査で、どのような改善点や要望があつたか伺う。

「墨田区次世代育成支援行動計画」の検討にあつた実施した調査結果では、乳幼児の保護者から「一時保育や緊急一時保育」の利用希望、子育て環境については、交通安全対策、犯罪から守る対策、就労と子育ての両立等に対する問題が指摘されている。動きながら子育てをしている方々の方策も重要であると認識しており、本年度から緊急一時保育の定員確保や一時保育実施圏の拡大を図った。また、一人での育児の悩みを抱えている方は、本年度から「いよに保育」事業を始め、育児士が子育ての悩みや疑問に答えている。育児士が子育てに臨むための支援策については、社会全体で担っていくべきと考えており、現在、「次世代育成支援行動計画」の中で、さまざまな主体の

◆食育先進地モデル実証事業

農水省から墨田区に協力依頼があつたと聞かれましたが、現在までの進捗状況と、今後の抱負と課題について伺う。

本区では、これまでに三十件以上の企画が提案され実施に向けて準備中である。民間企業とのコラボレーションによる創意工夫をこらした食育への取り組みが広がることに強く期待しており、広報等を通じて区民の皆様にも随時伝えていきたい。食育は誰もが日常的に深く関わっている分野であるとも認識し、本区が目指す協働・ガバナンスの考え方に合致した展開手法を、今後ともぜひ工夫していきたい。

②すみだ食育フェスティバル

六月に行つた「すみだ食育フェスティバル」の成果と来年の課題についてどう分析しているか。

今年度は区民主導型の実行委員会方式へと発展させ、区民による実行委員会と企業、団体の参画のもと、十日間での企画を実施された。その結果、昨年度の二倍を超える四千八人の参加があり、食育に関する意識啓発の面において大きな成果があつた。

今後の課題として、参画する区民や企業団体の裾野を広げていくことが最も重要だと考えている。

また、親子を対象とした料理教室については、来年度以降は回数を増やす等の対応が可能か、実行委員会等と検討したい。また、学校の家庭科室等の利用については、教育委員会と協議していきたい。更に、子どもに使いやすい調理環境への配慮については、家庭用調理器具を使いこなすことが調理に親しむ第一歩であるとの考え方もあつたので、今後とも十分検討していきたい。

高年齢者福祉課の介護予防事業における食育推進については、今後どのようなような方向性で進むのか。

現在の介護予防事業では、栄養に関する講義と運動を組み合わせた啓発講座や、閉じこもり防止のための食事業を行つている。今後の取り組みとしては、高年齢者が低栄養による要介護状態にならないように、食育推進リーダーをはじめとする区民の皆様と協力をして、

◆味覚教育について

体験学習は本来の人間が持つ能力の開発に有効であると思うが、墨田区の教育の中に、「味覚教育」を積極的に取り入れたらどうか。

「味覚教育」の目的は、子どもたちの味に対する感覚を言語表現により引き出せるようにすることとされている。食育において味覚に関する教育は重要な部分を占めるものと考えられるので、今後はこれを学校教育等の中で、どのように位置づけていくか、教育委員会とも調整を図りたい。

◆図書館について

教育長に、図書館の問題、子どもたちをとりまく環境問題、不登校問題について伺う。

図書館などの公共施設にベビーカーが入れる広さで、授乳室とオムツ替えシートを各階に設置していただきたい。出来れば男子トイレにも。

統合新図書館の授乳室とオムツ替えシートの設置については、各フロアにオムツ替えシートを整備して多目的トイレを設置し、二階に予定している「子ども図書館」に授乳室を設置する。

大人が絵本を身近に置き、子どもと共に楽しむ親しんでいく環境づくりが大切だが、大人の絵本展覧会などを計画したらと思うが。

図書館では利用者からのリクエストを随時受け付け、選書のうえ「新着資料」として図書館ホームページの「この本もホームページ」で「絵本」を含めて紹介している。

提案の「大人向けの絵本の展覧会」など、大人も絵本により多く触れることができるようなPRの仕方については、様々なイベントへの出席や、特定の館に特設コーナーを設けるなど、今後企画に工夫していきたい。

新しい図書館を造ることは様々な意見もあるが、少しでも区民の希望に添う愛される新図書館を建設していただきたい。

統合新図書館建設については、計画概要を開いた。設備内容や運営方法等については、具体的になり次第、区民に説明していきたい。また、図書館運営に区民の方々の意見を反映させるための仕組みづくりについても、引き続き検討していきたい。

◆子どもたちの育ちを応援する環境改善

子どもたちの育ちを応援する環境改善について、今年発生している青少年犯罪、いじめ、不登校などの問題の背景として、都市化、核家族化、少子化や地域的つながりの希薄化などが指摘されている。このため、アンスタントネイチャーや学生ボランティアの派遣、読み聞かせボランティアへの支援など、子どもたちが様々な人々に触れる機会の提供に努めてきた。

今年度から、地域のボランティア、企業の方々の力を借り、「学校支援ネットワーク事業」を立ち上げたが、さらなる人材の発掘と学校教育へのボランティアの活用を進め、そのネットワーク化についても一層研究をし、引き続き、地域・行政機関などの連携・協力のなかで、子どもたちの安全安心な居場所づくりに一層取り組んでいきたい。

近年発生している青少年犯罪、いじめ、不登校などの問題の背景として、都市化、核家族化、少子化や地域的つながりの希薄化などが指摘されている。このため、アンスタントネイチャーや学生ボランティアの派遣、読み聞かせボランティアへの支援など、子どもたちが様々な人々に触れる機会の提供に努めてきた。

今年度から、地域のボランティア、企業の方々の力を借り、「学校支援ネットワーク事業」を立ち上げたが、さらなる人材の発掘と学校教育へのボランティアの活用を進め、そのネットワーク化についても一層研究をし、引き続き、地域・行政機関などの連携・協力のなかで、子どもたちの安全安心な居場所づくりに一層取り組んでいきたい。

私は、墨田の子どもたちに誇りを持って生きて欲しい。そのため、不登校になつた子供への不安、おびえた気持ち、保護者の方の子どもの愛情の伝え方などを受け止めることのできる「子供と親の相談員機能」の確立を求めたい。

ご意見には全く同感であり、人とかかわる具体的な体験を積み重ねて生きる自信を身につけ、誇りや自己肯定感を育むことができることを考えている。さらに、将来を担う児童・生徒のために様々な教育活動を展開し、各校の児童やスタッフや学級において、不登校の児童・生徒に対してきめ細やかな指導を推進していくとともに、子どもたちが心身ともに健全で、生きる力をしっかりと身につけられるよう努力していく。

「すみだ食育フェスティバル」の成果と来年の課題についてどう分析しているか。

今年度は区民主導型の実行委員会方式へと発展させ、区民による実行委員会と企業、団体の参画のもと、十日間での企画を実施された。その結果、昨年度の二倍を超える四千八人の参加があり、食育に関する意識啓発の面において大きな成果があつた。

今後の課題として、参画する区民や企業団体の裾野を広げていくことが最も重要だと考えている。

平成20年度決算特別委員会 (10月20日～30日)

委員長 林 恒雄
委員 中村光雄、木内 清、田中邦友、樋口敏郎、山本とある、福田はるみ

墨田区議会自由民主党 田中邦友議員

20年度決算に対する意見を開陳(概要)

墨田区議会自由民主党を代表し、平成二十年度墨田区一般会計、国民健康保険特別会計、老人保健医療特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計の各決算案に対し、認定をする立場で発言をさせていただきます。

平成二十年度は、本区にとって正に歴史的と言わなければならない「東



会派の委員と、意見を述べる田中邦友議員

京スカイツリー」の建設が七月にスタート、墨田区の活性化や今後のまちづくりを展望する上で画期的な出来事であり、多くの区民の期待が一気に高まった年であった。一方、秋以降の世界的不況が日本経済にも波及し、急速な景気後退を余儀なくされた年でもあったが、本区の二十年度決算における財政指標はやや硬直化が見られるものの、財政健全化法に基づく健全化判断比率はいずれも健全段階にあるとされ、五年連続の黒字決算となった。

いま、国会においては、本年八月に行われた衆議院議員選挙で政権交代がなされ、過日、国の二十年度予算の概算要求、歳出総額九五兆円が各省から出揃った。そして、十月末から始まった臨時国会などを通じて、年内を目標に新政権による国家予算が固められていく状況にある。このような状況の中で開かれた本区の決算委員会であるが、七日間の熱心かつ真剣な質疑があった中で、改めて数点にわたり強調しておきたい。

＜区内産業の活性化＞
地域ブランド戦略プログラムは、極めて有効な事業と考える。まず、経営者のやる気、意欲といった課題もあるが、この事業が着実に推進されるよう期待する。

＜保育所待機児童の問題＞
緊急の三カ年計画により解消されることを期待しているが、予測を上回る需要が発生している中でも、待機児童ゼロを目指す強い姿勢で取り組むことを望む。

＜特別養護老人ホーム 入居待機者の解消＞
区の姿勢が問われていることを認識し、予定されている計画の前倒しを含め、なお一層の努力を願う。

＜すみだの教育＞
様々なシステムを導入し、子供たちの基礎学力の着実な定着と学力向上に取り組んでいるが、結果として不十分だと受け止めている。今年度、全小・中学校に新たに導入された「個人学習プログラム」の活用によって、従来を上回る成果が得られるよう大いに頑張ってください。

＜まちづくり交付金＞
新政権が進める、国の第二次補正予算の見直しや新年度予算に対する区政への影響について多くの質疑が行われた。とりわけ新タワー関連整備事業の推進をする上で、既に見通しが立っている「まちづくり交付金」は欠くことのできない財源だ。従って二十一年度は、なんとしても二十一年度に事業化できなかった事業分に加え、二十三年度以降分についても可能な限り前倒しで予算獲得につなげる努力を強く要請する。

＜名誉区民＞
総括質疑の中で、国民栄誉賞の王貞治さん、名誉都民として顕彰された西山鴻月さんのお二人を名誉区民の候補として提案したが、区の条例に基づき速やかにその手続きに入りたい。

以上、区財政をとりまく環境が一段と厳しくなることが予測されるところであるが、行財政改革の一層の推進を図り、強固な財政基盤を築くための不断の努力を望み、決算特別委員会の議題に供された平成二十年度の五決算案について認定の表明をし、意見開陳とする。

＜押上三号線踏切の解消＞
東武鉄道がかつて高架化事業に積極的であった経緯・経過を十分に踏まえると、この時期を逃したら二度と踏切り解消は不可能と判断する。新タワー完成時には、交通渋滞の発生が既に明らかであり、区の最重要課題との強い認識をもち、区長が先頭に立ち直談判も辞さない決意で交渉にあたりこの壁を突破すべきだ。

＜学校跡地の活用＞
懸案の陸上競技場の設置など、方向性について地域住民の理解が

得られる一定の見通しがつけば、明確な方針のもと具体化に向けて計画事業に組み入れるなど、積極的かつ迅速な対応を望む。

木内 清議員が、地域活動功労表彰



我が会派の木内 清議員が、去る九月、永年にわたり地方活動の発展に寄与した功績により、東京都の表彰を受けられました。



あそう
あきよ議員が
我が会派へ

あそう議員は、平成19年の初当選以来、民主21の議員として活動を続けてきましたが、このたび我が会派に所属し、共に区民の安心・安全を目指して活動を展開していくことになりました。よろしくお願いたします。



中沢 進議員
ご逝去

我が会派の中沢 進議員が、8月18日、ご病氣のため逝去されました(享年71歳)。


中沢議員は昭和58年の初当選以来、連続7期26年間にわたり在職し、区政に貢献されてきました。数々の功績を偲び、心から哀悼の意を捧げ、ご冥福を祈ります。

構想から行動へ!! すみだ自民党

平成二十一年度の、我が会派議員が所属する委員会・付属機関の一覧を掲載しました。


十三名の議員が、区政の各分野で発言力、提案権、行動力を持ち、区民皆様の様々なご意見、ご要望に応えられるよう、会派が一体となって取り組んでおります。お近くの議員または会派に、お気軽に皆様の声をお聞かせください。

中村 光雄
 両国 4-7-10-403
 3632-7870




- 企画総務委員会委員長
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 民生委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員

西原 文隆
 押上 1-25-5
 3622-9570




- 区民文教委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区社会福祉事業団評議員

瀧澤 良仁
 墨田 5-33-4
 3611-4003




- 産業都市委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員長
- 民生委員推薦会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員

田中 邦友
 八広 1-39-17
 3616-7014




- 区民文教委員会委員長
- 行財政改革等特別委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区文化振興財団評議員

出羽 邦夫
 八広 4-11-19
 3616-5834




- 産業都市委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 国民健康保険運営協議会会長
- 墨田区情報公開制度及び個人情報保護制度運営審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員

木内 清
 本所 2-9-5
 3624-8235



- 議会運営委員会委員長
- 企画総務委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区社会福祉事業団評議員
- 墨田区協治(ガバナンス)推進条例検討委員会委員

坂下 修
 向島 3-18-10
 3626-2524




- 墨田区議会議長
- 福祉保健委員会委員
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 防災会議議長をはじめ各付属機関等委員
- 墨田区土地開発公社をはじめ各公社等理事

山本とおる
 向島 5-42-3
 3622-0010




- 福祉保健委員会副委員長
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 消防団運営委員会委員

樋口 敏郎
 八広 3-6-3
 3617-4129



- 議会運営委員会委員
- 企画総務委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 国民健康保険運営協議会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員
- 消防団運営委員会委員

林 恒雄
 江東橋 1-8-7
 3631-1934



- 企画総務委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 障害者施策推進協議会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員

沖山 仁
 京島 1-39-1-918
 3616-1050



- 産業都市委員会委員長
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員
- 墨田区文化振興財団評議員

墨田区の巡回バスルート

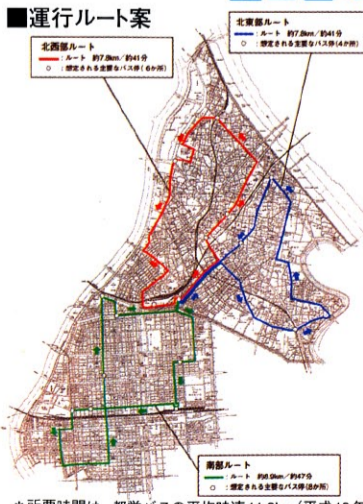
区内循環バスの運行ルート案がまとまりました。北部2ルート、南部1ルートの3ルートの予定です。

◎北西部ルート(案)
 押上→京島スクランブル交差点→曳舟文化センター→曳舟川通り→八広小学校→白髭橋→墨堤通り→向島見番通り→桜橋通り→新タワー→押上

◎北東部ルート(案)
 押上→京島スクランブル交差点→たから通り→東あずま駅→立花通り→平井街道→立花4・5丁目交差点→中平井橋通り→八広はなみずき通り→八広5・6丁目交差点→八広中央通り→押上ガーデン通り→押上

◎南部ルート(案)
 押上→西十間橋→横川→賛育会病院→錦糸町駅北口→北斎通り→江戸東京博物館→清澄通り→京葉道路→塩原橋→千歳→区役所通り→浅草通り→押上

*所要時間は、都営バスの平均時速11.3km(平成19年度)を参考にしました。



あそう あきこ
 菊川 3-22-5-102
 3632-4130



- 区民文教委員会
- 行財政改革特別委員会
- 障害者施策推進協議会委員

福田はるみ
 業平 4-5-16
 3625-8139



- 行財政改革等特別委員会副委員長
- 区民文教委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 青少年問題協議会委員